

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400073
法人名	株 だんだん
事業所名	グループホーム つるかめ
所在地	西予市野村町野村2-109-1
自己評価作成日	平成28年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が職員とともに作っていく安心して過ごし日常生活を送れるように支援しています。役割を持ち生き生きとした生活を送るよう支援します。
施設周辺は自然があり、のんびりした落ち着いた場所です。地域の方との関わりも多く、その環境を大切にしながら生活をしています。

- 常会時や回覧板で地域の情報を得ている。地域で実施する、「クリーン作戦」の折には、利用者と一緒に参加して草刈り後の草の撤去作業を行った。散歩を通して地域の方と顔見知りになっており、「顔を見ないけど元気ですか」とか「一人で歩かれていますよ」と、声をかけてもらうことがある。隣接するデイサービスのスペースで、2ヶ月に一度認知症カフェ「オレンジ倶楽部」を行っている。
- 近所を散歩したり、玄関前のベンチで過ごしたりしている。大型車を整備したことで外出の機会が増えている。大勢で出かける際には、複数台で行き、利用者の状況を踏まえて、ゆっくり過ごす方、早く帰りた方、で別れられるよう支援している。紅葉を見に行ったり、誕生会をホワイトファームで行ったこともある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職 員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つるかめ

(ユニット名) かめ

記入者(管理者)

氏 名 古田 康子

評価完了日 平成28 年 11 月 18 日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			理念に基づき家庭的な環境のもとで利用者が役割を持ち、 自ら選択でき、安心した日常生活を支援します。	
			(外部評価)	
			「利用者と職員が共に作っていく、落ち着きのあるきちんとした 日常生活を大切にします」「自分の生活を利用者自ら選択 し、作っていく生活を支援します」という理念を玄関スペース に掲示している。毎月職員と話し合い、ユニットごとに月目標 を作り、取り組みをすすめている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			お花見、食事会等地域資源を利用したり観月会、散歩など で部落の方と顔見知りになり声をかけて頂き、相互に支援を 頂いています。	
			(外部評価)	
			常会時や回覧板で地域の情報を得ている。地域で実施す る、「クリーン作戦」の折には、利用者と一緒に参加して草刈 り後の草の撤去作業を行った。散歩を通して地域の方と顔 見知りになっており、「顔を見ないけど元気ですか」とか「一 人で歩かれていますよ」と、声をかけてもらうことがある。隣接す るデイサービスのスペースで、2ヶ月に一度認知症カフェ「オ レンジ倶楽部」を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			日常的に利用者のできる事をして頂き、壁飾りや灯籠など少 しずつ完成させ作品を作って頂いています。また、灯籠はイ ベント時庭に点灯し家族や地域の方々に見て頂いていま す。また、地域活動の案内や参加して理解もあります。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			介護の報告やイベントの実施の報告等災害時の避難救出 依頼等意見を伺っています。利用者の生活の写真を診て頂 き生活状況を話合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(外部評価)	
			会議時には、事業所の様子やヒヤリ・ハット報告を行ってい る。家族は、1名の方をお願いして参加協力をしてもらって いる。地域の方にも依頼するが、「そんなのはええわ」と言わ れ参加につながっていない。9・3月は、隣接デイサービスと 合同で運営推進会議を行っている。	地域の方の参加を増やせるように、働きかけを工夫してほし い。さらに、メンバーからいろいろな意見が出るように、会議 のすすめ方についても工夫を重ねてほしい。会議を活かし て人や場とのつながりを広げてほしい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			常に拘束しない介護を心掛けています。また、研修会に参 加して他の職員に向けての研修発表して共有しています。 安全目的以外の設備、設置はしないように心掛けています。	
			(外部評価)	
			ひとりで出かける利用者には、職員がそと後から付いて行 き、見守り支援している。職員は、「ダメ」等の言葉の拘束に ついては気を付けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 精神状態や身体状態の変化等に気を配り、注意して防止に努めています。 暴言があるときは職員が間に入りゆっくりと納得するまで話を聞いています。申し送りに細かく情報を共有しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 施設内・外の研修に参加しています。 利用者の思いを大切に傾聴する姿勢で対応しています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 初回訪問や施設間で情報を共有しています。 入所時には、状態の確認を口頭や文章での報告をしています。毎月ユニットで話し合いあり、利用者の様子や変化を検討しています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会・見学等に説明する機会を作り、施設の理念も分かりやすく説明しています。地域の方々には生活の中で意見を頂くようにしています。 (外部評価) 家族には、来訪時や毎月発行する事業所便りで利用者の状況を報告している。家族に、利用者の食事の様子を見てもらえるように、家族の来訪時には、食事やおやつと一緒にできるよう誘っている。又、年1回の家族会時は、ゲームをして一緒に遊んだり、夕食を一緒にとったりできるよう計画している。遠方に住む家族には、メールや電話でやりとりをしている。	事業所のことをさらに知ってもらえるように、運営推進会議の内容や事業所が特に力を入れて取り組んでいること、職員の紹介やケアの事例等についても報告してはどうだろうか。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			申し送り時に提案があれば管理者に報告があり、すぐに対 応できることは対応しています。また、毎月のユニット会議で 話し合い、共有して検討後対応しています。	
			(外部評価)	
			職員からの意見は、職員間で検討して採り入れている。外部 研修後には、レポートを作成し、毎月の職員会議時に報告し て共有している。福祉用具の研修後には、事業所内で実技 講習を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			仕事に対しての要望や休みに希望などを合わせてもらう。急 遽の体調不良や家族の緊急時にも早期に相談・対応を受 けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	(自己評価)	
			外部の研修には積極的に参加してもらい、職員のスキルアッ プに努めている。また、研修発表で復習しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取組みをしている	(自己評価)	
			管理者等は事業者の交流もある。職員の交流は少ないよう に思います。研修会等の参加にて積極的に交流したい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている	(自己評価)	
			事前情報も踏まえ本人としっかり向き合い、得た情報と自分 の感じたこと関係づくりに活かします。困っていることや不 安なことなど聞き、安心して生活して頂くように支援します。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望や施設生活に不安なことを聞き面会時に報告できるようにしています。月1回の通信にて身体の変化や生活状況を伝えています。家族より良い情報を頂いています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期は毎日の申し送りを細かく報告し共有、職員会、カンファレンス等で情報を得て新しい生活の支援に柔軟に対応しています。本人の残存機能を生かして自分の生活を大切に過ごしてもらっています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食器洗いや食器ふき洗濯物をたたむ等以前生活でされていた本人にできる事してもらい達成感を職員とともに味わい関係性をよくしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人希望の時には、電話対応。面会は自室にてお茶しながらゆっくりと過ごされています。また、家族の不安や希望にも傾聴し支援しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 生活していた場所に外出や家族と自宅に帰る機会をもつていただくように支援します。本人希望で家族に了解を貰い、自宅へ訪問(帰宅)されることもある。地域のイベントに参加しています。	
			(外部評価) 生家に行くことを支援したり、家族の帰省に合わせて、自宅にお連れしたりしている。乙亥相撲は、以前から見に行っていた方が多く、年間行事に採り入れ支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホール内で一緒にできる作業を増やし、周囲と協力して達成感を感じる。協力してゲームや合唱で関わりを合っています。安心した家族のような存在になるように支援します。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所者には新しい環境になれるように情報提供しています。また、施設に訪問し安否確認しています。家族とお会いした時には以前と同様相談も受けます。時々、退所者家族の訪問もあります。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族や面会時に知人等に趣味や生活歴を聞いておりその情報を活用し生き生きとした生活を支援します。また、問題点は検討会を持ち解決できるように支援方法を検討する。 (外部評価) 利用者が選択できる機会を作るように心がけており、調査訪問時、職員は、利用者に聞きながら支援していた。外出時には、利用者からの発言をもとに行き先を追加して支援することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 施設の生活になっても生活力に維持が出来、周囲と楽しく生活できるように家族の応援もあります。面会時に家族からの情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 施設で生活する中で楽しみや不便さの改善等が出来るよう本人本意の支援をする。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			毎月の職員会では利用者の課題や現状の変化等を出し合い本人の意向に添う支援をする。関係者から聞き取りし必要と思うことは計画盛り込まれる。	
			(外部評価)	
			家族来訪時に要望や意見を聞いているが、「今のままで」「お任せします」と言われることが多い。「日々の記録」には、介護計画と支援内容を記載し、毎日モニタリングを行っている。管理者は、1ヶ月ごとに経過記録にまとめ、半年ごとの計画見直しにつなげている。	本人の思いや意向、暮らし方が反映された介護計画作りに取り組んでほしい。又、本人の支え手として、家族等や地域の人たちとの協力体制等も盛り込めるよう、工夫してみたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			気づきは支援経過に記し、申し送りで報告しています。同じ目標に向かって支援し、改善できるようにカンファレンスを開催し共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			利用者、家族の希望に耳を傾け、利用者の声を大切にしたい。実現可能か改善すべきかその場で変更も可能である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			「施設にいたい」と思っていたくよう地域資源を活用し地域の子供の訪問や学校行事の見学で交流を続けたい。学校帰りの子供が休憩に寄ってくれます。元気ももらえるようです。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			毎月1回主治医の往診を実施。健康管理、服薬管理の支援を頂いています。周囲の病院にも状況によって受診しています。	
			(外部評価)	
			通院時には、医師からの説明等を家族も一緒に聞けるように支援している。家族が受診に付き添う場合は、利用者の日頃の状態を家族に報告し、又、受診内容を聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			気づきは大切にし職員間で共有し看護師に報告・相談し助言や協力してもらい日頃から早めの対応を心掛けている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時には管理者または看護師がカンファレンスに参加し情報をえている。 入退院時には、主に管理者か看護師が対応しています。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			管理者・看護師・担当職員・家族で十分に話し合い、対応方針をこまめに共有し進めている。実施に向けては医者・家族・施設の連携に努め介護に取り組んでいます。	
			(外部評価)	
			利用契約時、事業所の方針を説明している。状態変化時には、医師も交えて家族と話し合い方針を共有している。事業所で看取り支援を行った際には、職員の勉強会や話し合いを重ねながら支援した。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			管理者、看護師、(施設長)に連絡し、緊急連絡網による通報や関係機関との連携等的確に対応できるよう心掛けている。救命救急や定期的に連絡網の訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			地震避難訓練・消防士による火災避難訓練の実施や夜間想定避難訓練も実施している。地域の協力マニュアル作成の話があり検討中である。	
			(外部評価)	
			年2回、火災想定避難訓練を行っている。消防署の協力を得て日中・夜間想定訓練を行っており、さらに、地震時のDVDの視聴や講和がある。年1回は、地震想定自主避難訓練を行っている。運営推進会議時には、区長から、地域の協力マニュアル作成について意見があり、災害時の地域の役割について検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			基本的にはプライバシー確保はできている。夜間は職員一人というもあり、不穏や利用者の変調も多く声掛けが通じないことが多い。言葉かけが大変難しい。	
			(外部評価)	
			居室の入り口には暖簾を掛けて、室内がまる見えにならないように配慮している。調査訪問時、居室を見せってもらう際には利用者に確認していた。利用者が聞かれたくないだろうと思われる内容については、皆から離れた場所で話すよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			小さなことでもいいので自ら選択できるように声掛け。言語障害等の方は手振りや表情で把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の負担にならないように希望に添うようにしています。 希望できない方については表情を観ながら、職員と一緒に 家事や体操を行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 朝の洋服も選択できる方は選んでもらっている。モーニング ケアでは髪をとく・散髪後自然に笑顔になりうれしい。身だし なみの大切さがわかる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立の希望を聞き、味付けや準備・片付け等職員と一緒に 手伝っていただきます。食事時間はその人の合わせてゆつ たりとしている。 (外部評価) 献立は、冷蔵庫にあるものを利用者に伝え、その都度決め ている。食材は定期的に配達してもらっており、足りないもの は買い出しに行っている。本人のペースで食事ができるよう に、職員も着席してゆっくり過ごすようにしている。「口から食 べる支援を成功させるコツ」の研修を受け、現在ミキサー食 の利用者について、ミキサー食と普通食を準備して、献立に よってミキサーにかけるかどうか見極めたうえで支援してい る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 会議で話し合い、利用者に合わせた食事形態で、水分補給 もトロミ剤やゼリーにして摂取しやすくしています。嚥下・咀 嚼状態の把握・共有しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアはしている。自分でできる方は拒否を多く、 声かけに工夫が必要。見守り・介助で支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表で定期的に声かけしています。排便コントロールもしっかりできています。便秘傾向の方は、便座に座ってもらいます。	
			(外部評価)	
			タイミングを見て声掛けし、トイレでの排泄ができるよう支援している。自分でパッド交換を行う利用者用にトイレ内、居室の決まった場所に排泄用品を収納している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			水分補給に気を付けてむせ込む方にはお茶ゼリー、トロミ使用して提供しています。オリゴ糖やヨーグルトを摂取しています。便秘時には緩下剤使用しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			個人の希望や定期的に入浴しています。通院や体調により柔軟に対応しています。衛生面、外出等をみながら声かけしています。リフト浴も利用可能です。	
			(外部評価)	
			職員と近くの温泉に出かけて支援するようなことがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			利用者の不眠・血圧低下等体調によって静養して頂いています。食後などは自室で休むように促しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1日分ずつセットし、介助者は服薬者・確認者の役割を分担している。頓服や変更時には受診した職員が支援経過に記し、申し送りを行う。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 料理の手伝いや洗濯たたみ、ハサミ作業等個々に合ったものを無理のない様手伝ってもら。歌や風船バレーでは生き生きとした表情をされ、達成感を得ることが出来る。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や日光浴に出かけています。玄関先でゆっくり過ごされることをあります。時々、買い物や受診の帰りに店でおやつを食べたりと外出支援しています。 (外部評価) 近所を散歩したり、玄関前のベンチで過ごしたりしている。大型車を整備したことで外出の機会が増えている。大勢で出かける際には、複数台で行き、利用者の状況を踏まえて、ゆっくり過ごす方、早く帰りたい方で別れられるよう支援している。紅葉を見に行ったり、誕生会をホワイトファームで行ったこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望者には預り金の財布を持って出かけ、おやつを買われます。自分で選択されますが、アドバイスの声掛けをします。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望者には家族に電話しています。自室でゆっくり話せる環境を作ります。携帯電話も使用されています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			共用スペースには季節の花が活けてあり、季節を感じる事が出来ます。壁画は利用者と職員が作成した季節の切り絵を飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			玄関前は屋根付きでベンチを置いている。玄関入ってすぐにもテーブルとイスを配置しており、畳コーナーもある。カメラやメダカを飼っており、じっくり観察する利用者がいる。利用者の写真を大きく引き伸ばして壁に掲示していた。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			テレビやタンスなど使用していたものを持ってきてもらう方もいます。が、収納スペースがあるため、持ち込み方が少ない。 機能低下や認知により、職員が整理することが多くなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			入り口ドアは3枚戸で、どちらからも開閉できる。片方に、利用者の名前を貼っている。ベットや大きめのタンスが備え付けてある。ベット横にカラーボックスを置き、化粧品を収納している方がいる。転倒が気になる利用者には、夜間のみベッド足元に人感センサーマットを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			ユニット間の交流が自由にでき安全に歩行することが出来ます。できない方、見守りをしながら自立した生活をされる方、自立した生活を目指す方様々です。	